

今回	累積	設問1	設問2	魚野の見解
2	4	事業者のもの◀利益を生み出しているから 株主のもの◀利益の分配を決めるのは株主だから	事業者のもの <根拠> 利益を生み出しているのは事業者だから <例証> 結局、会社を運営していて会社がないと株主は生まれないから	事業者とは誰のこと？会社そのもの？社長など経営者？従業員？
2	4	株主◀日本の会社法では会社を社団としており、社団の構成員である社員が会社の所有者となり、株式会社では、株主が法的な所有者となるため。 社員◀会社を運営していくうえで必要となるお金を支払った人が所有している	社員などの構成員-株主がいなくても会社は成り立つが、社長や社員などの構成員がいなくては成り立たないと思ったから。	株主がいなければ、会社を設立するためのお金がないため、会社が存在しないということになります。  ちなみに会社法上の株式会社の社員は、いわゆる従業員のことでなく、株主を意味します。
2	2	株主◀利益の分配の観点から配当は株主に払う。 株主総会の決議であらゆる利益の分配が行われるため 経営者◀会社の方針決定を行う経営者はあらゆる責任を負うため	株主 <根拠> なぜそういえるのか 株主はリスクととって会社を投資しているため会社の利益は株主のものである。 <例証> 根拠を支える上で参考にできる事例 株主は赤字になって配当が出なければ投資した意味がない、株価も下がってしまう。 倒産した場合投資元本はただの紙切れになるのでリスクは大きい。	形式上、会社は株主のもので。しかし、株主がたくさんいて、それぞれ意見が違う場合、経営者の提案が一部の株主のみの同意を得て採用されることがあります。こうした場合、意見が反映されなかった株主にとって、会社は株主のものと言えるでしょうか。
2	4	経営者◀そもそも最初にその会社を始めたのはその会社の創業者、経営者であるから。 労働者◀労働者一人ひとりには生活や家族があり、会社としては労働者がいてこそ経営することができるから。	自分がより重要だと考えるのは、「会社は労働者のもの」という考えです。 私は現在就職活動中だが、以前ある会社の説明会に参加させていただいた際、そこは福利厚生が驚くほど充実しており、社員一人一人に対する援助が手厚かった。総務の方は「会社は労働者のためにあるので、福利厚生を充実させて少しでも一人一人に恩恵を与えることにしている。」と言っていた。会社が社員一人一人を大事にしていることを強く感じ、それによってまた社員一人一人が業績を上げるために努力するというサイクルになっているように感じた。つまり、社員への恩恵を第一に据えて考えている時点で会社は労働者のためにあるのではないかと思う。 以上の理由から、私は「会社は労働者のものである。」と考えている。	会社の創始は、株主の出資がないと始められませんので、経営者だけが創業者とはいえない面があります。また、会社によっては、従業員がいない（社長だけの）会社もあります。加えて、会社が存亡の危機に立たされた場合、多くの従業員は、解雇など、自分にとって不利益な扱いを受けることがあります。会社の運営に必要なお金を出しているのは株主であり、従業員は、会計の視点からは、賃金など費用の項目で扱われる面があります。  もっとも、従業員が会社にとって大切であるという点についてはそのとおりです（従業員が会社と良好な関係になれば、会社の業績は悪くなる）。
2	4	株主のもの◀やはり株主が出資しないと会社は成り立たないと思うから。 社員のもの◀社長含め全員が会社の一部として働いているから。	僕は、会社は株主のものという考え方が重要だと思います。昔、池井戸潤の『ルーズベルトゲーム』という小説で会社は株主のものと書いてあった気がしたのでこちらにしました。実際に調べてみると法律的には株主が所有者とありました。ただし株主の私物というわけではない。	法律上はたしかに株主が会社の所有者です。会社を設立・解散させたり、経営者を雇う・辞職させる権利は、株主総会で行使されます、会社を多数派の株主の意のままにできるので、ある意味、私物とも言えます（所有権がある、活かそうと殺そうと所有者の自由）。もっとも、個々の株主が何でも自由にできるわけではなく、多数派に所属する、多数の株を持っているといった条件が必要です。
2	4	株主のもの◀株主が自己利益のために出資したから 社会のもの◀会社一つ一つが社会を回しているから	<結論> 会社は株主のもの <根拠> お金を出して会社に貢献しているから <例証> 株主自らが経営者を指名出来たり役員を決定することが出来たり解任することができるから。また、社長が100%株を所有している場合もあるためその場合は社長のものになります。	会社は社会に貢献する存在だから、会社は社会のものという考え方も最近盛んに言われるようになりましたね。顧客がいてお金をはらってくれるから顧客を大切にすべき、会社は顧客のものという考えや、働いてくれる人が満足していなければ会社はうまく回らないから会社は従業員のものという考え方もあります。
2	4	その会社の従業員のもの◀従業員がいなければ会社は成り立たない。社会に貢献しようとしても従業員がいなければ会社が回らないため。従業員の生活・命を守るため。 株主のもの◀会社の利益になる。株主がいなかったら会社は存在しないため。出資金を使って事業を行うため。	自分の考え方に近いのは「従業員のもの」です。しかし、「株主のもの」と比べてみると世の中に役立つ製品が提供され続けるといのは同じ点だが、従業員の生活・命に対してどれだけ会社が配慮をするのか、という点で大きな違いがあると考えた。	存続に不可欠という意味では従業員も株主も会社にとって必要な存在ですね。株主ではなく従業員のものと考え、会社の存続や社会貢献の意義を犠牲にしても従業員を守ることは、常に正しいと言えるでしょうか？（極端な例で言えば、反社会的な行動をする従業員が多く、会社そのものがしばしば不正を行うような場合）

今回	累積	設問1	設問2	魚野の見解
2	4	株主◀株式会社は株主による投資で会社資金を得て運営しているから 従業員◀会社を運営を実際に行っているから	<結論> 自分なりの考え 会社は株主のものである。 <根拠> なぜそういえるのか 経営者を選んでいるのは株主であるから。また株主の存在によって会社は資金を得ているから。 <例証> 根拠を支える上で参考にできる事例 株主総会で会社の経営の方針や事業を決め、株主が採決している。 また、テレビなどで不振の会社の株主総会では社長を交代させる！！などの罵声が飛んだりしていた。	株主が多数いる場合、少数株主の意見は反映されないことが多々あります。こうした場合も、会社は株主のものといえるでしょうか。
2	4	会社は株主と顧客のものだと思う。 株主◀株を投資して会社の利益に貢献しているから。 顧客◀その会社の商品を買って、その会社の利益に貢献しているから。	2.自分はこの二つだったら株主が自分の考え方に近い方だと思った。 この二つを比べて株主は株を投資していて顧客より多くの利益を会社に与えていると思った。 株主がいなかったら会社も成り立たないだろうし、株主も会社に貢献すればより多くの配当金が得られてまさにwinwinの関係だと思った。 自分としてはもっと株主に配当金や、優待券をあげた方が良いのではないかと考えた。	利益が顧客からの売上一会社が使う費用で計算できて、そこに資本（出資されたお金）は入っていないので、利益を会社に与えるのが株主とは言えません。
2	4	株主のものだと思う◀会社は、株主が自己の利益を得るために投資して自らが経営者を指名して業務させるものであるから。 社員のもの◀会社自体が成り立っているのは、株主などの出資者の他に働く人がいるからである。 なので社員のものであると思う。	自分の考えに近い方は株主のものだと思う。 根拠 もし株主が出資をやめてしまうと会社の資産が減ってしまい、商品の提供など営業が出来なくなりその会社自体が潰れてしまうので会社は株主のものだと思う。	出資が会社の生殺与奪を左右しているという意味では、確かに会社は株主のもんですね。また、会社が成り立つためには、働く人だけでなく、関与している人（お金を貸している人、取引先、税金を通じて貢献している社会など）がたくさんいます。
2	2	結論 労働力の減少により人員の確保が難しくなっていく。 根拠 製造業では3Kのイメージが強く根付いているため自主的にこの道に進んでくれる 若者達が少なくなっていくと思われる為。 例証 実際に製造業に志望する若者が年々少なくなっている状況であり結果として沈んでいってしまう企業が多数ある。	疑問 実際に製造業を志望する若者の推移を調べてみて2008年以降大きく下がったのが分かり、何故こういったことが起きたのか疑問に思った。 事実 単純に人口が減少したのに加えてデフレが続いていった事で志望者が減少している。 意見 デフレとインフレが激しく入れ替わっていくのは仕方のない事だと思うが今後年が経つにつれて製造業を志望する人が増えていき、安定した社会状態になってほしいと思う	(第1回未掲載分)  2008年はリーマンショックにより世界経済の混乱がありました。日本では急激な円高により、製造業の海外移転が進み始めた年でした。
2	4	株主のもの。◀株主は会社の経営によって膨大な損得が出るというリスクを背負い会社に投資している以上会社での利益は株主に還元されるべきであるから。 経営者のもの。◀会社内での最高責任者であり意思決定や取捨選択等を全て自分の責任で決める必要があり会社としての成功や失敗は経営者次第で決まるため会社は経営者のものと言える。	私自身の考えでは経営者のものであると思う。 根拠.なぜそういえるのか 上記のように会社での責任問題を全て請負い、会社の経営が上手く行くかどうかは経営者にかかっているためいくら株主もリスクを背負って会社に投資しているとはいえ、経営者の背負うリスクとは比べものにならない重圧があるため株主より経営者の方が会社の持ち主にふさわしいものであると考える。  例証.根拠を考える上で参考にできる事例 株主は会社の経営が落ちた際赤字になりお金を失うだけだが経営者は責任問題が問われ職をも失ってしまう。	たしかに経営者が感じる重圧は思いですね。もっとも、その重圧に見合う権限や報酬を、株主が与えています。会社の業績不振により何かを失うという意味では、株主は配当を、経営者は報酬や職を、従業員は賃金や、場合によって職をうしなうなど、違いはありますが何かしらの影響があります。また、経営者の意思決定は、最終的には株主総会で判断されています（経営者の任命・解職を行うのは株主総会）。重圧があるからといって、経営者が意のままに動かしていいか（場合によっては会社に不正をさせてもいいか）という問題もあります。

今回	累積	設問1	設問2	魚野の見解
2	2	<p>会社は経営者のものである◀なぜなら事業を起こすのも拡大するのも経営者の意思を元にしてからである。経営者が最終的に納得しなければ新規事業への参入も、事業拡大もなし得ないからである。またこの傾向は経営者が会社全体を把握しやすい中小企業ほど言えると思う。</p> <p>会社はその社に属する労働者全体のものであり特定個人のものではない。◀何故なら経営者は意思決定をすることは出来ても、具体的に事業を拡大するにあたり何が有効かを完全に把握しきることはできないからである。たとえ経営者が事業拡大をしようとしても1人では全ての業務をこなすことはできないしそれが本当に正しい判断かは会社全体で判断すべきだからである。</p>	<p>私が近い考え方は1つ目の会社は経営者のものであるという考え方だ。</p> <p>何故かというところ経営者というのは、1個人の意思で会社の今後を変えるような選択をすることができる唯一の立場だからである。労働者も確かに会社に影響を与えるが、経営者ほど頻りにそういったタイミングは起きづらいからである。</p> <p>具体的なものだと、悪い例になるが2007年にあったミートホープという精肉会社になる。この会社は社長の意思によって食品偽装を行い社会問題となった会社で、経営者個人の意思によって全国放送に流れるほどの問題を起こしてしまったことになるからである。</p>	<p>事業拡大など会社の根本的な方向性は、株主が決めます(株主の意向に沿わなければ、社長といえど、解任されます)。もっとも、小規模企業になると会社の経営者が唯一の株主、あるいは所有する株が過半数という場合も多いですが。</p>
2	4	<p>株主◀資本を出して「所有」の一部を担っているから。</p> <p>経営者◀会社が会社たるには、仕事を行う社員とそれを統率する経営者が必要だから。</p>	<p>&lt;自分なりの考え&gt;</p> <p>株主</p> <p>&lt;なぜそういえるのか&gt;</p> <p>社会的にも経営者より株主の方が優遇されているから。</p> <p>&lt;根拠を支える上で参考にできる事例&gt;</p> <p>株主は配当を受ける権利があり、経営者は配当を上げるために利益を追求しなければならない。</p>	<p>社会的に優遇されているのは、会社が株主のものという結果の具体的なあらわれであって、根拠・理由とはいえません。</p>
2	4	<p>株主◀法律的には株主のものであり、一番の出資者であるから</p> <p>経営者◀会社設立をした人であり、会社そのものを経営しているから</p>	<p>&lt;結論&gt;自分なりの考え</p> <p>株主のもの</p> <p>&lt;根拠&gt;なぜそういえるのか</p> <p>会社経営の出資者であり、会社が倒産、赤字などのことがあった場合に一番のリスクを抱えているから。</p> <p>&lt;例証&gt;根拠を支える上で参考にできる事例</p> <p>会社で得ることができた利益の多くは株主に還元される。あくまで経営者は株主に信頼されて、会社経営を任されているにすぎず、会社経営の決定権は株主にある。</p>	<p>会社が得た利益は、税金(国・都道府県)には一定の割合で計算されますが、配当や役員報酬、内部留保の割合は、株主総会で自由に決められ、かならずしも株主が大部分を取るとは限りません。</p> <p>また、経営者は会社を設立した人ではない場合があります。中小企業は創業者が経営者・株主を兼ねていることも多いですが、経営者は、株主総会で解任されることもあります。会社の設立は設立発起人によってなされます。もっとも、設立発起人が社長に就任することは多いですが。</p>
2	4	<p>経営者のもの◀商品を製造したり、売ったりするのは会社を経営する人たちだから。商品がなかったり、知られていなかったりすれば購入者が現れないから。</p> <p>顧客のもの◀商品を買ってくれる人がいなければ利益を得られないから。また、顧客の要求に会社側が応えるので顧客のものと言えると考えています。</p>	<p>&lt;結論&gt;私は「経営者のもの」という考え方が近い。</p> <p>&lt;根拠&gt;私は顧客も経営者もいなければ経済が成り立たないと思いました。しかし、「経営者=意思決定の最高責任者」と表現されていることから、会社の業績は経営者の意思によって決まってくるとかんがえられる。つまり、会社の命運は経営者によって決まってくるため、「会社は経営者のもの」と考えられる。</p> <p>&lt;例証&gt;経営者の生き方・考え方</p>	<p>会社の多くの意思決定は、確かに経営者が最高責任者とされていますが、その意思決定の評価をし、場合によっては経営者を解任したり、経営者が示した会社の方向性を承認(または否認)するのは株主総会です。</p>
2	4	<p>私は経営者と株主のものだと思う。</p> <p>理由は、会社は、株主が自己の利益を得るために投資をし、経営者を指名して初めて業務にあたらせるものだからである。</p> <p>もう一つの理由は、社長も社会から雇われ、さらに出資者である株主が存在しそして、その会社で雇った社員に業務を遂行させるからである。</p>	<p>私の考え方が近いものは、1つ目の理由である。</p> <p>その理由は、例えば私が店を建てるとして、その資金と販売商品の仕入れに使うお金は、すべて経営者である私が払い、そして私がお金を支払って雇った従業員の人が売り上げに貢献し、そのおかげで従業員の人が支払うお金や仕入れ代金を支払ったうえで、たくさんの利益を生む。</p> <p>やはりその場合は、その店は経営者のものになるからである。</p>	<p>店を建てるためのお金は、まず出資者が出資することで会社のお金になり、それが使われます(小規模事業者などでは社長が出資者を兼ねていることも多いですが)。</p>
2	4	<p>株主のもの。◀会社は株主総会で会社の大まかな指針を決めることが多く、そこで株主の意見を取り入れることがあるため。</p> <p>その会社の役員。重役。◀やはり、実権を握るのは役員などである場合が多い。より詳しい会社の事情を知っているのも役員であり、指針を決めるのは重役会議である。</p>	<p>結論)私は、後者の、役員、重役のほうが、会社の持ち主であると思う。</p> <p>(根拠)確かに、株主総会などで株主から意見を取り入れることが株式会社では多いが、多くの場合、賛成、反対のどちらかを聞く場合があり、そもそもの意見を出しているのは役員であると思う。</p> <p>(例証)また、株を公開しない場合もあり、最初から会社の指針は会社のほうで決めるという場合もあるので、やはり会社の持ち主は役員である。</p>	<p>たしかに株主総会に提案する議題は、役員(取締役)で構成される取締役会が提出しています。しかし、それを承認するか、否かは株主総会で決められます。また、役員(取締役)を就任させたり解任したりする権限も、株主にあり、株主総会の議決で決まります。</p>

今回	累積	設問1	設問2	魚野の見解
2	4	<p>1.株主のもの ◀ 会社の株を持っているため。株主総会が開かれたらそこでどの様な実績、方針なのかを説明する。そのため大まかなことは株主が決めると考えたため。</p> <p>2.会社で働いている人たちのもの ◀ 会社だ働いているということはその会社の一員として働いています。株主たちは、今年度の決算表などしか目を通してなく現場のことは何も知らない人が多いのではないのでしょうか。そのことを考えれば会社で生まれた利益なども基本的には会社で働く人ものものではないかと考えました。</p>	<p>&lt;結論&gt;自分なりの考え 自分は、2のほうが自分に近い考えです。</p> <p>&lt;根拠&gt; 自分が今、働いてるとして会社は誰のものと言われたら自分たちのものと答えるからです。自分が懸命に働き皆と協力してきた利益は自分たちの汗や血だとかんじるからです。</p> <p>&lt;例証&gt; 労働組合があり、会社の方針と意見が合わない場合はストライキが起こり仕事が一時停止することがあるように、従業員の意見は尊重されること。</p>	<p>確かに、従業員の自負や貢献を考えれば、また、従業員が満足していれば業績はよくなる傾向にあることを考えれば、従業員は大切です。しかし、業績不振になった場合など、従業員が解雇されるような場合があります。そうしたときは、誰の意向や利益が優先されているのでしょうか。</p>
2	4	<p>1.1 誰のものか (株主) ◀ 株式会社の株式を保有する者のことであり、その結果株主は、その会社があげた利益の一部を受け取ったり、その会社がどのように運営されるかに関して投票する権利を得ることになる。そして、株主は社長を辞めさせれることもできるから</p> <p>1.2 誰のものか (社長または従業員) ◀ 会社は社長と従業員がいるから会社が成り立っている。シンプルに従業員たちが1番頑張っているのだから社長又は従業員のもの</p>	<p>&lt;結論&gt; 株主はただ投資しているだけで、会社の中身のことは何もやってない。社長と従業員は会社全体のことをやっている社長の会社だと思う。</p> <p>&lt;根拠&gt; 会社の中で社長がトップだから</p> <p>&lt;例証&gt; 社長がいないと会社が成り立たない</p>	<p>がんばっていたとしても、結果が出ない社長は株主総会で解任されることがあります。つまり、社長は自分の希望にそわずに退任させられる場合もあるということです。</p>
2	4	<p>株主です。 ◀ 株主は赤字になって配当が出なければ投資した意味がなくなり、倒産してしまう可能性もあるのでリスクが一番高いから。</p> <p>経営者 ◀ 会社の業績を上げて株主に返すことで、株主に承認を得た業績に連動した報酬を手に入れることは当然であるから。</p>	<p>&lt;結論&gt; 株主のものだと思います。</p> <p>&lt;根拠&gt; 会社は資本なしでは経営できないため、資本者である株主は絶対に必要不可欠であるからです。</p> <p>&lt;例証&gt; 会社を存続させるためには利益を上げることが重要で、利益を上げるための元となるお金を出してくれるのが株主だからです。</p>	<p>資本は不可欠ですが、会社で大切なのは、実際に働く人、そして、勝ち抜くための知恵を出す人であり、この3つの要素はどれも会社の存続には不可欠です。</p>
2	4	<p>株主のもの ◀ 株という形でお金を集めているから。</p> <p>銀行等のもの ◀ お金を借りているから。</p>	<p>銀行等のもの 株というものには配当などのリターンを求めたあくまで投資の一環であるのに対して銀行等の場合は借金という扱いになると思うので会社は株主よりも銀行のものであると考えます。</p>	<p>銀行からお金を借りていない会社もあります。その場合は？</p>
2	4	<p>経営者 ◀ 誰かが会社を継続しなければ、仕事が成り立たないから</p> <p>株主 ◀ 会社から信頼できることがなければ会社の経営にならないから</p>	<p>私は株主が重要だと考えます。 根拠は会社に信頼がないとお金が回りませんし、会社の株も儲かりません なので私は株主が重要だと考えます</p>	<p>会社に対する信頼は、一部は確かに資本の多さ（資本金が多額か）によりますが、多くは日々の経営者や従業員の活動（支払いがしっかりなされるか、社会や従業員、株主など関係者とよい関係を築けているか）によります。</p>

今回	累積	設問1	設問2	魚野の見解
2	4	<p>株主のもの。◀ 法的には所有権は株主であり、株主が会社における最高意思決定権を持っているから。また、会社が経営できるのは株主が出資しているから。経営者は株主に委任されて会社を運営しているわけで、所有権は株主にあるといえる。</p> <p>考え方② ◀ 経営者のもの。          &lt;なぜそういえるか&gt; 実際に会社を運営しているのは経営者であり、従業員である。経営者は従業員の生活を支える必要があり、命を守っていかなければならない。会社はよりよい世の中にするために存在していて、それは人が安定した生活を送ることにつながる。その責任を負っているのは経営者だから、会社は経営者のものといえる。</p>	<p>&lt;結論&gt;一概にどっちのものとは言えないが、私は経営者のものだという考え方に近い。</p> <p>&lt;根拠&gt; なんのために会社を運営するのかというところが一番重要だと思う。株主の出資により会社が経営できているというのは事実。しかし、経営者が堅実な経営を行うことで顧客がいて、社員を守り、地域とのつながりを生んで、社会が発展していく。それを行っているのは経営者であり、会社を動かしているのは経営者だから。</p> <p>&lt;例証&gt; 2019年にプロサッカークラブ、「鹿島アントラーズ」の経営権が日本製鉄からメルカリに移った。今までずっと地元で愛され、支えられてきた、伝統のあるクラブで地域のシンボルなので、地元の人やサポーターは本拠地が変わってしまうことや、クラブ方針が変わってしまうことに対して不安もあったようだ。しかし、本拠地は変えずスタジアムも継続使用、企業基盤を拡大、新しいビジネスを展開して、アントラーズブランドを向上させていくために経営権を譲ったということがあった。これを見て、本当にクラブのことを思い、地域やファンのことを考えたときに、よりよいクラブにしていくためには、経営権を移した方がいいと決断したのだと思う。その責任を担っているのは経営者なので、どちらかを答えるのであれば、会社は経営者のものだと思います。</p>	<p>確かに経営者が実質的な会社の活動を指揮し、その結果を左右している点、非常に重要です。もっとも、その経営者を自由に選任・解任できるのは株主総会です。</p> <p>誰のものということばの意味を、所有の意味に解するか、大切にすべき人という意味で解するか、視点によって結果や論拠も違ってきますので、どのような視点で論じるかを述べると良いでしょう。</p>
2	4	<p>会社は株主のもの。◀ 会社の存在理由は利潤の最大化であり。その利潤は最終的に株主に帰るところにあるからだ。</p> <p>会社は顧客のもの。◀ 株主等に出資をしてもらい、運営できているのはわかっているが。運営を行うために、顧客がいないと、商売にはならない。売り上げを上げてようやく、会社に利益がはいってくることを考えると、会社は顧客によって生かされていると考えられ、会社は顧客のものといえる。</p>	<p>&lt;結論&gt; 自分なりの考え。          私なりの考えとして、1の会社は株主のものだと、考えられる。</p> <p>&lt;根拠&gt; なぜそういえるのか。          株主という出資者がいてお金が得られ、そこから経営を行っていくと考えると、やはり株主のものと考えられる。顧客がいて商売はなりたつが、その前の資本がないと会社は成り立たない。そういう意味で渡しは株主のものとする。</p> <p>&lt;例証&gt; 根拠を支える上で参考にできる事例。          株式会社であると、株主が出資しそれを資本と考え、会社が経営を行う。経営を行っていく中で、利益がでるとその利益を株主に還元する。この繰り返しで会社が成り立つ。</p>	<p>お金を得る先としては、取引先（売上）や銀行（借金）なども考えられます。また、会社の利益は、特に創業期ほど、配当に回さずに会社の内部留保にまわして成長を優先させることもあります。</p>
2	4	<p>株主のもの◀ 会社は、株主が自己の利益を得るために投資としてお金を出し、自らが経営者を指名して義務に当たらせるから。</p> <p>従業員◀ 会社を支えているのは従業員だから。</p>	<p>私は従業員だと思う。会社の指揮命令には服さなければならぬが、従業員は能力が勤務年数に応じて昇進することが通常であり、やがては役員となるものもいる。さらに従業員持ち株制度やストックオプションにより、株主となる権利が与えられたりする。制度上、会社とはむかひいであるはずの従業員だが、その力が会社に不可欠である。</p>	<p>年功序列制度や持ち株制度などは大手企業やベンチャー企業など一部の会社にみられます。こうした企業のニュースはよくとりあげられるので、多くがこうなっていると考えがちですが、実はそうでない企業も多数あります。</p>